



# 遠 慶



新潟教区報 第125号

2019(令和元)年6月1日発行

## 若い女性聞法の集い (初参式) に参加して

新潟組金照寺衆徒 洪野 明子

日時 平成三十一年三月十日(日) 九時三十分〜十一時三十分

会場 本願寺新潟別院(参加者二十二名・初参式受式者六名)

テーマ 「初参式って知っていますか?」初めの一歩はお寺から」

講師 本願寺派布教使・国府教区米山組浄善寺住職 長井順一さん

新潟別院の初参式に、九ヶ月になる息子と夫の三人で参加させて  
いただきました。

息子が生まれたその日から、赤ちゃんのお世話で精一杯で心身と  
もに疲れ切っていた私は、お寺の本堂で仏さまのお話を聞く機会が  
殆どありませんでした。泣いたらどうしよう、どうか騒がないで、  
と外ではいつも心配でした。しかし可愛らしいお念珠と式章を頂い  
てお念珠に興味を持ったのか小さな手に持って一緒に参りして  
くれました。

阿弥陀さまに家族そろって参りできたこと、とても嬉しく思  
います。また、同じくらしいの月齢のお子さんをお持ちのお母さんとの  
出会いもあり有意義な時間を過ごせました。

息子が九ヶ月であると同時に私も親にならせていただいで九ヶ  
月、母親として生まれました。まだまだ何も分からない状態です  
が、新たに授かった命の誕生を喜び大切に育てていきたいと思いま  
した。息子の為であると同時に、私達夫婦が親として家族として新  
たな心構えが出来た式でありました。

## 「貧困問題」に関する研修会に参加して

巻組長光寺門徒 梨本 重雄

日時 平成三十一年三月八日(木)十三時三十分～十六時三十分  
会場 本願寺新潟別院(参加者三十名)  
テーマ 「貧困の実態について」  
講師 新潟県立大学人間生活学部子ども学科教授 小池 由佳さん

今年に入って、地元の社会福祉協議会を訪れると、入り口に、「ご飯をたべられない人がいる」というポスターとのぼり旗、それに小型の入れ物が置いてありました。

事務局の方にお尋ねしたところ、生活困窮者支援活動とのことでした。「近くに対象となる方はいらっしゃいますか。」と聞いたところ、「少数ですがいらっしゃいます。」とのことでした。貧困問題は都会のこととだけだ、農村地域でも顕在化していることに驚きました。よくよく注視していなければ分かりにくい出来事です。

ほどなくして教区で「貧困問題」に関する研修会が行われました。その実態が新潟市の調査結果をもとに報告され、根本的な課題が「子どもと地域の未来について」と提起がなされました。

貧困は、格差社会が固定化し、社会不安を招く原因になることが懸念されます。地域で階層化がはつきり見えるときはもう遅いのかも知れませんが、「食糧支援」「子ども食堂」など既に運営されていることなど先行事例を参考に、一人一人、グループやネットワークなどでやれるところから一步を踏み出し、輪を広げる事が必要なようです。それにしても、どんな時代にむかっているのでしょうか。



全体協議会の様子

## 本願寺新潟別院どんとこいフェスタ報告

子ども・若者ご縁づくり推進部会員 長岡組信光寺坊守 水内 暁子

日時 平成三十一年三月二十四日(日)十五時～十八時三十分  
会場 本願寺新潟別院(参加者八十名)  
内容 おつとめ・法話・イベント・夕食交流会・ともしびの集い

若い世代を中心としたすべての方々とのご縁を作り、つなぎ、深めるための「どんとこいフェスタ」を今年も開催いたしました。私は今回、夕食交流会の調理と「ともしびの集い」のナレーションを担当させていただきました。調理の関係でイベントの八幡太鼓を見る事が出来ず残念でしたが、初めて見たスコップ三味線は想像より賑やかで楽しく、途中から教務所長さんが加わって盛り上げておられたのが印象的でした。分水チェリベルの皆さんは親しみやすい有名な曲を演奏してください、ハンドベルの音色に聴き入っていました。

当初は参加者が少ないと聞いておりましたが、夕食交流会で料理を出しながら周りを見ると、多くの方々からご参加いただいたりしている事がわかり、安心しました。様々に時期や内容を検討・変更しつつ、どんとこいフェスタが現在の形となって三年、少しずつ定着してきているようですが、寺族の参加が少ない事が気がかりです。

私は以前、「遇光会」(教区の寺族青年会)に入っており、親子・夫婦ともに貴重な体験とご縁をいただきました。そこでいただいたご縁、繋がりは今も続いています。若い世代のご門徒さんと寺族との繋がりはもちろんですが、寺族同士や寺族と教区の繋がりが大事なものだと私は思います。ご門徒さんと寺族、教区それぞれがご縁を作り、つなぎ、深めるためのどんとこいフェスタに、是非ともご参加ください。



## 法話 「主と客人」

与板組浄秀寺衆徒 雲林 重正

本願寺八代目蓮如上人のお言葉に「仏法をあるじとし、世間を客人（まろうど）とせよ」という言葉があります。仏法は譬えるならば主、世間は譬えるならばお客さんのようなもののだということです。ここで言われる「お客さん」とは、今はここに来ている用事が済めば帰っていく存在です。

私は今、子育ての真っ最中です。しかし一生子育てを続けるわけではありません。子どもが独り立ちすれば、子育てというお客さんはいつか私のもとを去っていきます。

仕事もそうです。お金もそうです。そして健康も若さも同じです。そして、私にとって一番大切なこの命もいつか私のもとを去っていく日が来るのです。そのことを蓮如上人は「世間を客人とせよ」と教えられました。

それに対して「仏法こそが主である」と蓮如上人は教えてくださいます。「主」とは家の中心にあってどんなことがあるうともその家を守っていく、支えていく存在です。

蓮如上人は仏法、阿弥陀さまのみ教えこそが私たちの人生の「主」だということです。全てのものが私のもとを去ったとしても、阿弥陀さまだけは決して私のもとを去ることはありません。

お念仏の響きとなり、教えの言葉となつて、私の人生を導き、支え続けてくださるのです。

そのことを蓮如上人は「仏法をあるじとせよ」と教えてくださったのです。



## 震災支援活動を続ける意味

与板組常禅寺住職 旭 勲

今年も三月十一日のテレビや新聞などでは、「あの日（震災）から八年」といった内容で特番が組まれ、災害への備えや、現在の東北地方の様子などが多く放送されていました。しかし翌日には震災などなかったことのように「普段通り」の番組が放送されていました。

私は震災以降毎年繰り返し返されるその様子に、強い違和感を覚えます。「災害は忘れたころにやってくる」「備えあれば憂いなし」と、私たちに「災害はいつ自分の身に訪れるかわからないものであって、被災者と呼ばれる立場になる可能性は皆同じようにあるのだ」ということを教えてくれる言葉が空しく頭をよぎります。

三月十一日を東北（福島県）で迎えたのは今年で六回目となりました。関西の僧侶の皆さんが中心となって活動されている「震災支援を続ける会」の活動に参加し、お手伝いをさせてもらっています。近年は年に三回ほどしか参加できていませんが、それでも「続ける」ことに大きな意味があると思っています。

新潟県も震災を経験し、「被災者の声」が多く取り上げられています。その中でも「私たちが今、皆さん（県外の方々）にしてもらいたいことは、哀れみでも同情でもありません、ただ私たちのことを忘れないでほしいのです」との言葉が印象に残っています。「忘れない」とは「他人事としない」ということだと受け止め、そのためにボランティア活動を続けていきたいと思っています。

震災支援を続ける会では、たこ焼きや焼きそばの炊き出しや、夏季にイベント広場など年間を通して活動がなされています。どなたでも参加いただけますので、ぜひご一緒にいたしましょう。



追悼法要の様子

# 寺院巡り 三条組大願寺

住所 三条市元町一五―五  
電話 〇二五六―三三―一八五九

大願寺は三条市の旧市街地にあつて、かつて三条城跡があつたといわれています。そのこともあつて、以前は古城町の町名でありましたが、現在は元町となつています。

寺院由来は明治三十五年七月の島地黙雷書によると、天保四年に仏光寺派安楽寺住職の利教師が本願寺三条別院建立に尽力したことにより本願寺派へ転派して、第二十大廣如ご門主より天保十年に寺号を賜り、別院門前に大願寺を建立したのが始まりです。以後、昭和元年に三条別院が火災で全焼し、境内地の三分の二を地元の三条町に売却しました。これにより道路が通り、ロケーションが大きく変わりました。



大願寺本堂

これに伴い当寺も変化し、隣接地を買収し、現在の配置となりました。本堂は平成四年に新築したものです。現在の寺院周辺は公共施設と空き家が多く、学校も閉鎖し子どもの姿も少なくなりました。寺院への影響もあり、ご法座などで近所の人々が来なくなったのは大きな問題です。以前とは違った方法や環境で寺院へ来て頂くことを試行錯誤しています。

## 今後の予定

### ・門徒総代会研修総会

日時 六月十三日(木) 十三時三十分  
テーマ 「寺院の活性化について」  
講師 岩佐 善静さん(新潟教区教務所長)

### ・「み教えと差別の現実」に学ぶ研修会

日時 六月十七日(月) 十三時三十分  
テーマ 「み教えと差別の現実」に学ぶ  
講師 武田 達城さん(一般財団法人同和教育振興会常務理事)

### ・仏教婦人会連盟・寺院女性会連盟合同清掃奉仕

日時 六月二十二日(土) 九時三十分  
清掃奉仕の他、ターナ石験作り・バザー値付けを行う予定

### ・本願寺新潟別院御取越報恩講

日時 六月二十五日(火) 〇二十七(木)  
講師 熊原 博文さん(本願寺派布教使・東京教区埼玉組正善寺住職)

### ・子ども報恩講

日時 六月二十六日(水) 十六時三十分〜十七時三十分  
内容 おつとめ・おはなし・フラ板キーホルダー作り・腕輪念珠作り等

### ・新潟別院公開講座 みんなで学ぶ「歎異抄」

日時 七月一日(月) 十四時  
講師 高橋 純明さん(本願寺派輔教・長岡組西福寺住職)

### ・「貧困問題」に関する研修会

日時 七月十九日(金) 十三時三十分  
講師 未定

### ・連研のための研究会

日時 七月二十五日(木)  
テーマ・講師ともに未定

ラジオ法話 新潟教区布教団による ラジオ法話

FMながおか 八〇・七 毎週月曜〜金曜 十六時十五分よりの放送中です。  
(放送地域は長岡市全域、小千谷市、小国、川口、山古志、出雲崎、見附)

編集/浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会  
〒九四〇―二四〇二 新潟県長岡市与板町与板乙四三五六 本願寺新潟別院内  
TEL: 〇二五八七二二二二〇 FAX: 〇二五八七二二二五三六